



平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月7日

上場会社名 株式会社CRI・ミドルウェア 上場取引所 東  
 コード番号 3698 URL <http://www.cri-mw.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 押見 正雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役コーポレート本部長 (氏名) 田中 克己 (TEL) 03-6418-7083  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	1,091	14.4	238	149.6	246	156.3	169	162.3
29年9月期第3四半期	954	0.9	95	△53.8	96	△50.7	64	△49.2

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 173百万円(145.8%) 29年9月期第3四半期 70百万円(△39.9%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
30年9月期第3四半期	35	69	30	27
29年9月期第3四半期	13	66	12	14

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第3四半期	4,105	2,214	53.5
29年9月期	3,463	1,928	55.5

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 2,196百万円 29年9月期 1,920百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
29年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
30年9月期	—	0.00	—	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	1,550	23.1	315	165.1	315	162.5	217	172.1	45	92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
 ② 期末自己株式数  
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年9月期3Q	4,949,018株	29年9月期	4,931,618株
30年9月期3Q	159,000株	29年9月期	200,000株
30年9月期3Q	4,742,380株	29年9月期3Q	4,722,431株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関連)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(企業結合等関係)	8
(1株当たり情報)	10
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に雇用環境の改善が顕著となり、緩やかな回復基調で推移している一方、米中貿易摩擦問題や米国政権の保護主義的政策への懸念などにより、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境について、スマホゲームアプリ市場で成長鈍化の兆しはありますが、「Nintendo Switch」の人气が継続、ハード・ソフト共に販売が伸長しており、ゲーム関連の市況環境は堅調に推移しております。

これらの状況下、当社グループは、2018年5月31日に株式会社ウェブテクノロジーを完全子会社化し、これまでの音声・動画処理技術に加えて、同社が強みを有する静止画・アニメーション関連技術も含めて、幅広い顧客のニーズに対応すべく研究開発に取り組んでおります。ゲーム分野では、国内市場において当社製ミドルウェア「CRIWARE（シーアールアイウェア）」の大手顧客向け包括契約の獲得やスマホゲーム向けライセンスの新規受注を積極的に進めており、ライセンス売上として安定的な収益基盤になっております。また、海外市場においては、成長著しい中国市場においてシェア拡大を優先した施策、特別条件での提案を進めており、収益化に一定の時間がかかる見込みではあるものの採用件数は着実に増加しております。組込み分野では、業務用エンターテインメント機器向けの技術提供や音響機器向けの開発案件など、独自のサウンド関連技術提供による受注が伸びております。医療ヘルスケア分野では、クリニック向け開発案件の受注が順調に進み、概ね計画通りに進捗しております。新規分野では、資本業務提携先であるTerafence社のIoTデバイス向けセキュリティソリューションと当社の動画圧縮技術「CRI DietCoder（シーアールアイダイエットコーダー）」を統合した製品開発を進めております。

このような結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,091,830千円(前年同期比14.4%増)、営業利益は238,704千円(前年同期比149.6%増)、経常利益は246,353千円(前年同期比156.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は169,272千円(前年同期比162.3%増)となりました。なお、当社グループはミドルウェア事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしていません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産の部は、前連結会計年度末に比べて642,066千円増加し、4,105,592千円となりました。これは主に、「投資有価証券」の増加（前連結会計年度末に比べて237,113千円の増加）、当四半期連結会計期間に実施した子会社化を背景に「現金及び預金」の増加（前連結会計年度末に比べて144,121千円の増加）並びに「売掛金」の増加（前連結会計年度末に比べて115,795千円の増加）によるものであります。

#### ② 負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債の部は、前連結会計年度末に比べて356,699千円増加し、1,891,417千円となりました。これは主に、「未払法人税等」の増加（前連結会計年度末に比べて85,517千円の増加）、当四半期連結会計期間に実施した子会社化を背景に「その他の流動負債」の増加（前連結会計年度末に比べて236,653千円の増加）によるものであります。

#### ③ 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産の部は、前連結会計年度末に比べて285,366千円増加し、2,214,174千円となりました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上額169,272千円による「利益剰余金」の増加及び自己株式の処分に伴う「資本剰余金」の増加額43,745千円並びに「自己株式」の減少額56,744千円によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月10日にお知らせの「当社による株式会社ウェブテクノロジー及び株式会社ウェブテクノロジー・コムの株式取得（子会社化）に関するお知らせ」等の影響を鑑み、当社グループの平成30年9月期の連結業績予想（平成29年10月1日～平成30年9月30日）数値を売上高1,550百万円、営業利益315百万円、経常利益315百万円、親会社株主に帰属する当期純利益217百万円に変更しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,524,593	2,668,714
売掛金	254,010	369,806
仕掛品	1,169	2,235
繰延税金資産	607	8,763
その他	45,027	107,451
貸倒引当金	△711	△972
流動資産合計	2,824,695	3,155,997
固定資産		
有形固定資産		
建物	26,061	29,548
減価償却累計額	△10,390	△13,997
建物(純額)	15,670	15,550
工具、器具及び備品	31,221	34,786
減価償却累計額	△26,075	△29,434
工具、器具及び備品(純額)	5,146	5,351
有形固定資産合計	20,816	20,902
無形固定資産		
ソフトウェア	78,797	144,276
その他	291	291
無形固定資産合計	79,088	144,567
投資その他の資産		
投資有価証券	445,267	682,380
繰延税金資産	31,023	25,471
その他	65,193	76,273
貸倒引当金	△2,559	—
投資その他の資産合計	538,924	784,124
固定資産合計	638,830	949,595
資産合計	3,463,525	4,105,592

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,117	18,919
未払法人税等	—	85,517
賞与引当金	—	7,519
その他	69,154	305,808
流動負債合計	71,272	417,764
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,329,900	1,329,900
退職給付に係る負債	85,614	90,651
役員退職慰労引当金	47,931	53,101
固定負債合計	1,463,446	1,473,652
負債合計	1,534,718	1,891,417
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	422,851	425,104
資本剰余金	412,851	456,596
利益剰余金	1,365,305	1,534,577
自己株式	△276,800	△220,056
株主資本合計	1,924,208	2,196,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	5,280
為替換算調整勘定	△3,586	△4,784
その他の包括利益累計額合計	△3,586	495
新株予約権	8,186	17,456
純資産合計	1,928,807	2,214,174
負債純資産合計	3,463,525	4,105,592

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	954,131	1,091,830
売上原価	276,100	356,434
売上総利益	678,031	735,395
販売費及び一般管理費	582,405	496,691
営業利益	95,625	238,704
営業外収益		
受取利息	1,734	2,526
受取配当金	2,591	3,231
消耗品売却代	—	1,182
その他	1,987	988
営業外収益合計	6,313	7,929
営業外費用		
為替差損	—	187
社債発行費	5,671	—
固定資産除却損	152	92
その他	—	0
営業外費用合計	5,824	279
経常利益	96,115	246,353
税金等調整前四半期純利益	96,115	246,353
法人税、住民税及び事業税	27,848	83,389
法人税等調整額	3,730	△6,308
法人税等合計	31,578	77,081
四半期純利益	64,536	169,272
親会社株主に帰属する四半期純利益	64,536	169,272

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	64,536	169,272
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	5,280
為替換算調整勘定	5,986	△1,198
その他の包括利益合計	5,986	4,081
四半期包括利益	70,522	173,354
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,522	173,354
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関連)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	16,816千円	28,364千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成30年6月1日付けで、第三者割当による自己株式の処分を行い、資本剰余金が41,492千円増加し、自己株式が56,744千円減少しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が456,596千円、自己株式が△220,056千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ミドルウェア事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は、平成30年5月10日開催の取締役会において、株式会社ウェブテクノロジー及び株式会社ウェブテクノロジー・コムを全株式を取得し完全子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、平成30年5月31日に全株式を取得いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の概要

- ① イ. 被取得企業の名称 株式会社ウェブテクノロジー  
ロ. 事業の内容 画像最適化ソフトウェア・ASP等の企画・開発・運用
- ② イ. 被取得企業の名称 株式会社ウェブテクノロジー・コム  
ロ. 事業の内容 ソフトウェアの販売・レンタル・導入支援

平成30年6月1日付で、株式会社ウェブテクノロジーを存続会社とする吸収合併（株式会社ウェブテクノロジー・コムは消滅会社）を行っております。

(2) 目的及び理由

当社は、創業以来、ゲーム等のソフトウェア開発をスムーズかつ効率的に行うための音声・映像ミドルウェア「CRIWARE（シーアールアイウェア）」を開発し、提供しております。音声や映像品質を損なわないデータ圧縮や通常では難しい特殊演出を可能にする技術により、アプリケーションソフトにおけるさまざまな音声・映像表現を実現しております。近年は、ゲームで培った高度な技術をIoT等でデジタル化が進む分野に活かすべく、家電や監視カメラ、車載等に展開を進めております。

対象会社は、画像最適化ソフトウェアを開発し、同じくゲーム業界を対象に、大手ゲーム会社からインディーゲームまで幅広く提供しております。高画質な画像データは色情報を多く必要とするためデータサイズが大きくなり処理に負荷がかかるのが課題ですが、同社は、高度な減色技術により、画質のクオリティを変えずにデータサイズを小さくすることを実現しました。この画像最適化技術はデジタル放送でも採用されるなど定評があり、カーナビや家電、ウェブサイト向けにも展開しております。

両社は、対象市場を同じくしながら、重複しない技術を展開しており、今回の株式取得は、当社の製品構成の充実をはかり顧客満足度を高めると同時に、販売面における相乗効果と効率化に繋がるものと考えております。当社の音声・映像技術に、対象会社の画像最適化技術が加わることで、ほぼすべてのデジタルコンテンツ開発をカバーすることが可能になります。今後ますますデジタル化が進む中、互いの強みを活かし、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

(3) 企業結合日

平成30年5月31日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が議決権の100%を取得し、完全子会社化することによるものであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に、被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

(1) 株式会社ウェブテクノロジー

取得の対価	現金	405百万円
取得原価		405百万円

(2) 株式会社ウェブテクノロジー・コム

取得の対価	現金	202百万円
取得原価		202百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 5百万円

5. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

該当事項はありません。

(2) 発生原因

該当事項はありません。

(3) 償却方法及び償却期間

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13円66銭	35円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	64,536	169,272
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	64,536	169,272
普通株式の期中平均株式数(株)	4,722,431	4,742,380
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	12円14銭	30円27銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	592,630	848,600
(うち転換社債(株))	232,732	582,732
(うち新株予約権(株))	359,898	265,868
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。